

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800211
法人名	社会福祉法人 新光会
事業所名	グループホーム ふるさと
所在地	福岡県飯塚市綱分870番地26
自己評価作成日	平成24年2月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月5日	評価結果確定日	平成24年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふるさととは、「みんな家族です」を理念にあげ利用者にやさしさ・思いやり・いたわりを合言葉に日々支援しています。利用者様は、軽度から重度の方で平均年齢も90歳になり利用者様個々にあったペースでゆっくりと穏やかに毎日過ごしています。日々の体操やリクレーション・行事などがスタッフやボランティア・地域の方々・同法人スタッフが盛り立てます。本年度は同法人3施設の行事等で交流をはかり又、初めて自治会主催の盆踊りをふるさと園庭にて踊り、たくさんの子供達に利用者様も喜ばれました。年末の餅つきは地域の方々やご家族様・身体障害者施設の利用者様・スタッフも参加し50名の大勢の方が参加して頂きました。自治会のいきいきサロンにも参加し老人会の方や婦人会の方とも親睦を深めています。園庭に小さな畑がありますが地域の方に教えていただき、利用者様と共に野菜づくりを楽しんでいます。ご近所の方やご家族様より野菜の頂き物が多く喜んでいます。全員で外食に出掛けることもあり、近くのお好み焼き屋では、顔なじみです。利用者様・ご家族様・スタッフ・地域の方々・行政・社福新光会の6つの輪がグループホームふるさとを支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、自治会主催の盆踊りがホームの園庭にて開催され、ホームでの餅つき大会等も、地域より参加を得ながら盛況に開催されている。避難訓練についても、自治会より積極的な協力を得て実施されており、日常の中で、自治会長をはじめ、地域の方々との交流を積み重ねてきたことによる、地域との根付いた関係性がうかがえる。入居者の方々の喜びが、管理者、職員の喜びであるという思いから、車椅子を利用されている方も多量の中、積極的に外出支援を行っている。外食に出かける際には、ハサミやボットを持参し、個別に応じた形状にも細やかな対応を行いながら、全員で楽しめるよう取り組んでおり、近所のお好み焼き店では常連となっている。「私たちは、みんな家族です。」を柱とする理念「私たちの思い」の実践に向けて、様々な関係者との連携を深めながら、日常の暮らしの中で心身機能の活性化に取り組んでいる事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として「私たちは、家族です」という方針を 掲示しすべての職員に周知し家族を合言葉に暖かい家庭・家族づくりを目指し日々の業務に取り組んでいる。	「私たちの思い」と題された理念の中心には、「私たちは、みんな家族です。」という基本方針があり、その語りかけてくるような温かな文言は、当事業所の雰囲気や、様々な取り組みとも重なり、実践がうかがえる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し自治会主催のいきいきサロンに参加し老人会・婦人会・地域の方々と交流を深め、初めて盆踊りを園庭にて開催したり、野菜を頂いたり、散歩でお逢いすると挨拶をします。運営推進会議などで地域の情報を得て事業所が出来る事があれば協力している	自治会長には、雨が降りはじめたら声をかけてもらったり、畑の野菜作りを教わったりと、日常の中で温かいサポートを頂いている。公民館のいきいきサロン参加や弦楽奏を聴きに行ったり、園庭は自治会主催の盆踊り大会の会場としても利用されている。また、ホームのバーベキュー大会やもちつき大会も、地域住民や家族、同法人障害者施設利用者等の参加により、盛況に開催されている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3月に救命救急講習を施設で行う際自治会長を通じて地域の方々の参加を呼びかけ数名参加予定がある。又4月には、社会福祉協議会推進の「認知症サポーター育成講座」の研修も運営推進委員会と噛み合わせて地域の方々にもお声がけし実施する予定である。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や各委員会活動の 報告・行事参加の要望又は、地域との関係をより密着する場として意見や情報などサービスの質の向上に活かしている。	家族、自治会長、民生委員2名、町職員の出席で定期的開催される。年度初めには、事業所の事業計画、年間行事予定を報告する。環境美化、給食、防火管理、レク研修等の各委員会からも、取り組みを報告し、意見、要望を貰いながら運営に反映させて行っている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に市職員の方がおられ行政の情報を得ている。又、毎月介護相談員の受け入れを行い、施設の利用者の様子など把握され協力関係を築くよう取り組んでいる。	事業所から徒歩5分の所に市役所の支所があり、運営推進会議への出席も得ながら、日頃からの協力関係は築かれている。毎月、介護相談員を受け入れている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門や玄関の施錠は、していない。身体拘束をしないケアを実践している。	年1回、身体拘束に関する研修を行っている。日中玄関の施錠は行われていない。夜間、居室は鈴や音センサー対応ナースコールにて、見守りと共に安全確保の手助けとしている。現在、家族の同意のもと、ミトンを使用している事例がある。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や行政・社協・マニュアル等・日々の申し送りや職員会議・個人面談等で職員に確認している。又、入浴時には利用者の身体を確認している。	

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の関係する利用者はいないが、今後の事を考慮し管理者は、2月25日の成年後見人セミナーを受講する予定である。その後職員に施設内研修を予定している。	法人内研修を行い、資料は回覧しファイルに綴じている。入居者、家族からの問い合わせには情報提供出来る形がとられている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、入居契約書や重要事項説明書は、丁寧にわかりやすく説明している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・不満・苦情は毎日の申し送りや職員会議等で取り上げ職員全員に周知させ利用者に対応している。家族には、意見・不満・苦情の言いあえる関係を築いている。外部者では、飯塚市による介護相談員の受け入れをしている。	毎月の支払い時は、家族との面談の機会としてもとらえている。日頃から意見の出し易い雰囲気作りを心掛けている。年3～4回便りを発行し、情報提供に努めている。介護相談員の受け入れを行っている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや職員会議・個人面談等で意見や提案を聞き反映させている。	毎月1回、職員全員参加の会議を開催し、情報を共有しながら意見を出し合う。管理者は、職員の意見、要望を吸い上げ、運営に活かして行っている。1年に1回自己評価表も作成し、課題や目標に共に向き合っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	ゆとりが持てる職員数の確保や介護が軽減するような福祉用具の購入など常に就業環境の整備に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は、募集・面接より関わり、福祉職員としてふさわしい人材を重視している。年齢・性別・経験を問わず能力に応じた適材適所の人事に取り組んでいる。	職員採用時には、性別や年齢等を理由に、採用対象から排除はしていない。理念を共有できる人間性を重視している。法人内の連携を活かし、講習会を開いたり、外部研修の参加等、資質を高める環境にある。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常の業務内や日々の申し送りや職員会議・個人面談・園内研修などで取り組んでいる。	法人内で、理事長が講師となり、研修が行われ、勤務中の職員には伝達研修として、情報を共有しながら人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で3施設合同研修を行ったり、ふるさと独自の新人職員カリキュラムがありそれに沿って研修を行い、施設内では、研修計画書を基に職員会議後に行っている。又日々の介護業務の中でトレーニングしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームと昨年度は職員の情報交換の交流でしたが、今年度は、利用者が互いのホームに出掛けお茶をしました。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入所などを行いながら環境に適應できるよう、本人と何回も面談して困っている事や不安な事、要望などを聞き十分なアセスメントを行いながら支援している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大切な家族をお預かりする為に、本人と同様に何回も面談を行いながら関係作りにも努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の信頼関係を築く為に何回も面談したり、体験入所していただいたり電話にてお話ししながら必要としている支援を見極めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の得意な利用者からは、味付けを習ったり、味見をして頂いたり、畑を作っていた利用者からは、畑仕事のアドバイスをもらったり、洗濯物を畳んだり、いろんな場面で暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、家族でゆっくりお話が出来るよう配慮したり、職員は利用者の近況を詳しくお知らせしたり、利用者が家族の事を忘れないように常に家族の事を話題にする。職員と家族は、共に利用者を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家のご近所の方や昔、同じ職場だった方、以前通っていたお店の方が訪ねてきたり、以前行っていた美容院に行ったりして馴染みの関係が途切れないように、支援している。	外出記録として、自宅や馴染みの美容院、近親者の家やお見舞い、お地藏さん参り等、馴染みの関係性の継続に向けた支援が確認できる。	

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や人間関係を考慮して、それぞれの場面において、職員が中に入り支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院等に入院している方は、お見舞いに行ったり、老健へ転居した利用者には面会に行ったり、死亡退所の際は初盆まで関わり、その家族には、ふるさと新聞を送付したり、退所しても家族の方が他の利用者に会いにこられたりする関係が築けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護・日々の気づきの中で利用者の方がどのような事を望まれているか、いろんな変化をすばやくキャッチするように意向の把握に努めている。	職員に10日に一度、「小さな気づき」を記入してもらい、管理者と共に、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。意思表示の難しい場合でも、仕草や表情から感じ取り、本人本位に検討している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に詳しく聞いている。家族の話を中心に置き生活歴等を把握している。利用者にも日々の生活での会話の中で昔の事や家族の事を話題にしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で心身状態の変化に目配りし一人ひとりの添った支援・持てる力を出せるように努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とのミーティング・本人の希望・家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。	入居者や家族の意向を聴き取り、カンファレンスにて細やかなニーズを検討し、介護計画に反映している。毎月のモニタリング・カンファレンス、定期的なアセスメントの更新を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌があり一日の様子や利用者の言葉や態度・気づきなどを記録している。申し送りノートの活用や職員会議での個別処遇・カンファレンスを行い職員間の情報を共有している。		

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人には、身体障害者施設・デイサービスセンターがあり利用者同士の交流や職員の交流として3施設合同行事が年3回あります。又各時の行事でも職員の応援や大型車の貸し出し、デイサービスが休みの日曜日に施設を借りてカラオケやマッサージを楽しんだりしています。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や民生委員の方には、運営推進委員として関わりがあり消防署には避難訓練・救命講習を依頼したり地域資源と協働している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの内科主治医が2週間に1回往診に来られる。利用者の小さな変化を見逃さず、随時連絡を入れて報告しアドバイスや指示を頂いている。又、リハビリもあるので膝・腰など悪い利用者は、送迎して頂き週2回受診している。	これまでのかかりつけ医への継続受診や、協力医による定期の往診等、家族との連携も図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職2名を配置しているので利用者の体調の変化や病気の早期発見に結びついている。又看護職は、夜勤帯ですぐに指示が出せる体制を整えている。主治医や病院看護婦と頻繁に電話連絡を取りながら健康管理や医療活用の支援をしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な利用者には、主治医より紹介して頂き入院先とのパイプになって支援して頂いている。入院した際は、随時面会に行き医師や看護婦より状況報告をもらっている。利用者には、早く退院出来るように声かけしたり、入院しても家族に任せきりにしない。常に関わりをもっている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の協力体制のもと、重度化や終末期の医療連携は、できている。主治医・家族・管理者を交え終末期にあたり話し合いを行っている。又関連施設での移行や病院の紹介などの提案を行っている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について方針の説明を行っている。入居年数の長い方もあり、話し合いは常に行われている。看護師2名の配置や医師の連携を図りながら、状態の変化に伴い、関係者間での方針の共有を図っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議・施設内外研修・日々の処遇の中で実践したり、マニュアルを熟読し、敏速な対応が出来るように取り組んでいる。毎年消防署より来て頂き救命救急講習を職員全員受講するようになっている。地域の方にも声かけし参加している。又電話のそばに救急車の呼び方を掲示し急な時に備えている。		

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や自衛消防組織表を設置し担当を決めている。自治会とも協力体制が出来ていて避難場所として地区の公民館に決めている。	年2回、自治会長や近隣住民の協力を得ながら、避難訓練が実施されている。また、今年度の救命救急蘇生法の講習には、地域住民の参加が予定されている。隣接する神社の古木が施設内に倒れ込んだ際には、自治会を上げて、後片付けが行われている。飲料水等の備蓄も行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守り言葉づかいには、常に気をつけている。又個人情報、事務所で保管しプライバシー保護に努めている。又申し送りや職員会議では、名前をインシヤルで言っている。	申し送りや会議は居間で行われる為、個人情報へ配慮した名称を用いている。また、個人ファイルは、事務所に管理、保管している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日ごろのケアより本人の意思を尊重し時間をかけて利用者に向き合い声かけしながら支援している。選択する場面がある場合は、利用者の意思にて選択して頂いている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のティタイム後体操や歌・ゲームなどのレクを行うが利用者全員に声かけし参加・不参加は、利用者の意向を尊重している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容師が散髪をしている。毛染めを希望される利用者には、職員が染めている。時にはマニキュアを塗ったり、お化粧品をしたり、職員が美顔マッサージをしたりしておしゃれを楽しまれている。洋服が買いたい希望があれば担当職員と買い物に出かける事もある。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを配ってもらったりお盆ふきのお手伝いなど行っている。又BGMにオルゴールで奏でたCDや童謡などかけ食事を楽しむ雰囲気づくりをしている。利用者全員で近くのファミレスやお好み焼き屋に外食する事もあり、お店側との協力を得ながら支援している。メニューを何日か前にお借りし利用者に食べたい物をゆっくり選んで頂いている。	検食日誌で所見を記録しながら、硬さ、大きさ、味等の確認、検討を行っている。外食に出かける際は、ハサミやポットを持参し、個々に合わせた形態にして全員で楽しみ、近所のお好み焼店では常連となっている。散歩中採った土筆や露は、全員で下準備を行い季節感を楽しんでいる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量が把握できるように毎日記録している。利用者1人ひとりの状態を観察し食べやすさなどを考慮しミキサー食から刻み食まで嚥下や咀嚼の状態に合わせ提供している。		

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや義歯洗浄・うがい・口腔ケアを必ず行っている。半年に1回連携の歯科医師によって口腔の状態を診察して頂き治療が必要な利用者は訪問歯科をお願いしている。歯科衛生士による口腔体操指導や歯科講習を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ排泄周期の把握や時間による声かけ・申し送りや職員会議で常に利用者全員のADL状態の確認や見直しを行いその方にあった排泄支援を行っている。	排泄状況やパターン、リズム等の把握に努め、カンファレンスにて個別の対応方針を検討し支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取に気をつけ、食事に野菜をたくさん提供し、軽い腹部マッサージ・肛門マッサージを行っている。散歩したり廊下を歩いたり、運動も行う。排便状況の記録をつけている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日があり、ゆっくりと入浴を楽しんで頂けるように支援している。可否や洗髪は1人ひとりの希望を聞いている。又体調不良で入浴が出来ない利用者は、清拭を行っている。	週3回の入浴日を設け、体調や希望、時間帯等に配慮しながら、入浴支援を行っている。状況に応じて、シャワー浴や清拭等を行い、清潔保持に配慮している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動で1日のリズムをつけ安眠につなげているが夜間の状態が不穏な時は、温茶などを飲んでもらったりリラックスしていただけるように支援している。又お昼寝の時間を設け利用者に声かけし希望する方は居室誘導する。		
49		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と相談しながら准看護婦である職員を中心に支援している。薬の飲み忘れ防止に薬袋に日にちを記入し、個人別に管理している。又個人ファイルにどの職員が見ても一目でわかるように薬情を貼っている。お薬手帳もその都度整理している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や力を活かした役割として食後のお盆拭きや洗濯物たたみ、お茶バック詰め、里芋の皮むきなどを職員と共に行っている。嗜好品は買い物の時、購入されたり、家族が面会時持って来られる。		

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は、利用者に声かけしてできるだけ散歩や庭に出るよう支援している。気候に応じて園庭でお茶やお菓子を食べている。又買い物希望する利用者には、スーパーやイオンなどに個別に支援している。又、大型者を借りて全員でドライブなど出かける事もある。</p>	<p>車椅子を利用している方も多いが、出来る限り戸外に出る機会をつくり、希望に添った支援を行っていく方針である。散歩がてら土筆や露を採ったり、個別の買い物にも出掛けている。近隣のお好み焼き店は常連となっている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ほとんどの利用者はお金の管理が難しく、家族・本人・管理者と協議の上、家族よりお小遣い程度お預かりし管理者が管理し買い物に行った時に利用者に払って頂きお金と関わっている。家族には、月に1度所持金残高と購入領収書を請求書に同封し確認して頂いている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の依頼があれば、状況により家族へかける支援はするが、現状は難聴の方が多い為かけたり、かかってくる事もあまりないので管理者は、請求書を送付する時に近況報告をしている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間には毎月変わる職員手作りの折り紙を使った作品が飾られ、利用者も毎回楽しみにしている。車椅子の方が多いためあまり物を置いてなく、気分が明るくなるような環境づくりを心掛けている。難聴の方が多いのですが、テレビやCDの音量に気をつけたり、施設内のカーテンをピンク色にして明るくなるように工夫している。</p>	<p>大学の寮を改造したホームの居間兼食堂は、車椅子でもゆっくり移動出来る空間となっている。廊下や居間にもソファが置かれ、寛げる場所が確保されている。台所は会話をしながら食事作りが出来る、家庭的な造りとなっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間には、みんなが座れるソファを配置し、居室間の廊下にもソファを置き思い思いに過ごしていただけるようにしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時の説明で家族には、今まで使い慣れた家具や、品物を持ち込んで頂くように伝えている。</p>	<p>各居室はゆったりした造りとなっていて、ベットはホーム側の提供であるが、整理ダンス、仏壇、冷蔵庫等一人ひとりの今までの暮らしの延長が出来る様支援を行っている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は、バリアフリーになっていて車椅子も入るトイレや浴室を設置している。廊下、トイレ、浴室には、手すりを設置している。居間の床は、フローリングだったが、転倒防止にカーペットにリフォームを行った。</p>		